

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990100196		
法人名	医療法人あすか会		
事業所名	グループホームアンジェロ三碓の里(春日)		
所在地	奈良市学園大和町3丁目4番		
自己評価作成日	平成28年11月6日	評価結果市町村受理日	平成29年1月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2990100196-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2990100196-00&amp;PrefCd=29&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪府北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成28年12月2日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、住宅街に立地しており、地域住民と交流できる場が多くあります。日常的生きがいや楽しみが持てるように支援し、利用者にとって、地域社会での生活に刺激や活気が生まれ、ホームにいながら住み慣れた地域での社会性特性維持に努めています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは家族との関わりを大切に考え、ホームの夏祭りやバーベキューなど年間の行事には家族に案内し家族と共に楽しむ機会を設け、家族同士の交流の機会になると共に、職員との信頼関係の構築にも繋がっています。今年度より運営推進会議に民生委員の参加が得られるようになり、地域の抱えている高齢者問題について話し合い、民生委員と共に一人暮らしの高齢者の熱中症予防に取り組むなど地域との関わりも少しづつ広がっています。また法人全体で内外研修や勉強会、自己研鑽の機会や職員が主体的に考えて取り組む分科会活動などもあり、質の高いサービスの提供に向けて人材育成に取り組んでいます。職員体制も整う中で職員の意識も高まり、会議やミーティングなどで利用者本位の支援に向けて意見を出し合い、一人ひとりを尊重したケアに取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念に基づき、事業所あ各ユニットの目標を職員間で話あい、事務所などに掲示している。また月一回のフロアMTなどで確認を行っている。	毎月の会議で理事長がホーム名の成り立ち等、法人やホームの方向性について職員に伝えていきます。職員は理事長の話を読まへホームの月間目標や個人目標を決め、振り返りや確認の機会を持ち実践に繋げています。ホームの目指す方向性や理念として文書化されたものはない状況です。	ホームの目指す方向性を職員間で話し合いホーム独自の理念を作られてはいいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方にホーム内での行事に参加して頂けるように働きかけを行っている。また地域の高齢者の集いなどの活動の協力なども行い、地域の方々に広域に取り組みを理解していただけるように取り組んでいる。	自治会に入会し地域の夏祭りやふれあいサロンに利用者と一緒に参加したり、溝掃除などは職員が地域の一員として参加しています。またホームの夏祭り等の行事にはボーイスカウトの子供たちや音楽やフラダンスなどのボランティアの来訪があったり、近隣の公園で遊ぶ子供が気軽にトイレを借りて訪れるなど少しずつ交流が広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活用している	運営推進会議や、地域の会合などに参加の際、認知症の理解や支援方法など地域に向けた啓発活動なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	や民生委員、地域包括、ご家族様、利用者様にも参加いただける。毎回頂戴したご意見に関しては、運営や活動に反映させるように努めている。また地域での取り組みも教えて頂いたり、認知症に対しての質問などにもお答えしている。	会議は今年度より民生委員の参加が得られ、時には他施設の管理者の参加を得たり、家族会と合わせて行うこともあり工夫しながら開催し、ホームの運営や活動、行事などの報告を行い意見交換をしています。家族の意見を受けて職員の顔写真や行事予定を分かりやすく掲示したり、民生委員の情報を基に地域の高齢者問題について話し合い、熱中症予防の取り組みに繋げるなど共に話し合う有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の報告や担当窓口へ訪問し、様々な相談など随時おこなっている。	運営推進会議の議事録はその都度窓口へ提出し、内容について質問を受け説明したり、運営上の分からない事は随時相談しアドバイスをしています。また市の研修や集団指導に参加した際は情報交換を行い協力関係を築くよう努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。身体拘束の勉強会も開催し、内容は職員全員が把握している。	入職時や身体拘束に関する定期研修の他、法人の身体拘束分科会の取り組みに職員が参加し、話し合った内容を全職員に伝達し周知しています。言葉による行動の制止はその都度注意を行い、身体拘束に繋がるような事例についても職員間で話し合う機会を持っています。全ての施錠を行わず職員間で連携して見守り拘束のない自由な暮らしを支援しています。	

グループホームアンジェロ三碓の里(春日)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待を未然に防ぐため、勉強会を開催し、虐待について全職員が把握し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人についての勉強会を開催し、職員の理解・知識に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書と併せて、十分に説明を行い、納得していただいた上で同意やサインを頂いている。ご家族や利用者様の意向をできる限り踏まえて対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、苦情相談受付に対応する職員も設けている。日常的に聞かれる苦情	家族の面会は日常的に多く、職員が必ずコミュニケーションを図り、意見や要望がないかを聞いたり、家族を招く行事やその後のアンケート、年に1度の家族会や運営推進会議などでも聞いています。家族から職員の顔と名前が分かる顔写真や行事予定表を掲示する等得られた意見は職員間で検討し反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	理事長を交えて、月に一回会議を開催し、検討事項や相談事項についても話し合い、運営に取り組んでいる。	職員の意見は理事長が参加する毎月の会議やユニットごとのミーティング、個別面談の他、管理者が日々の業務の中で職員の意見を収集しています。職員は活発に意見や提案を出しており、物品購入や業務改善等に繋がっています。また職員は法人の感染予防や防災等の分科会活動に参加しており、主体的に考え活動に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	フロア会議を月一回開催し、状況の把握や改善などを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	フロア会議を月1回開催し、状況の把握や改善を行っている。レクリエーションや施設内研修なども個々に担当を持ち、向上心を持って働く環境作りを心掛けている。		

グループホームアンジェロ三碓の里(春日)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加し、地域のグループホームとの交流も図り、サービス向上の為、必要な知識・情報の交流を行う。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に事業所への見学や、本人様と面接をさせて頂き、不安な事や要望など受け止め、ケアプランに繋ぎ作成している。日々の支援の中から信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人様・家族様の望まれる事を優先に対応し支援している。3か月毎にモニタリングを行い、利用者の経過状況を伝え、支援内容を変更する際にも、家族様に確認して頂き、意見・要望を取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様・家族様の望まれる事を優先し対応している。要望に応じ、受診介助や外出時などの介助対応も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や食器洗いといった家事は、利用者様も参加し、手分けして行っている。利用者様に役割を分担しながら、よりよい関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に話しあいを持てる環境を作り、信頼関係を築き、ケアプラン作成時は、十分話し合いを行い作成している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の生活でよく利用していたスーパーや美容院、馴染みの人と顔を合わせるような環境を作り、また友人や知人も面会にこられ楽しく過ごされるような支援を行っている。	近隣からの入居が多く在宅時に利用していた店に買い物に行き、知り合いに会うこともあり、会話や挨拶をしています。また近所に住んでいた人や友人などの来訪時は居室に椅子やお茶を用意しゆっくりできるよう配慮しています。また年賀状や手紙を書く方もおり、部分的な代筆や投函を支援したり、馴染みの美容室や自宅の仏壇参りをする方などは家族の協力を得ながら関係が継続できるよう支援しています。	

グループホームアンジェロ三碓の里(春日)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で、日常の家事を協力し合いながら行っている。また月一回のおやつ作りやおやつ買い物などの外出などにも積極的に計画し交流を深めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人様・家族様の様子を伺い、相談を受け付け支援を行えるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや好きな事が理解できたときは、職員間で情報を交換を行う。困難な場合は本人の日々の行動、表情、しぐさからくみ取るように努めていく。	入居時は見学を兼ねた面談で本人や家族から暮らしへの希望や生活歴、趣味などを聞き意向の把握に繋がっています。入居後の半月ほどは全職員が利用者向き合う中でこれまでの暮らしの様子や趣味趣向などの情報を集中的に収集したり、本人の言葉や様子を個人記録に記入し随時ミーティングで話し合い、思いの把握が困難な場合は家族に相談しながら把握できるように努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前の面接時に、生活環境を確認したり、生活歴や生活スタイルを本人様、家族様から伺い、利用後の支援に役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活に応じて、日常生活や利用者様の心身状態、認知状態を把握し、個々に合った対応ができるように、日々の観察、状態変化への対応に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成には、本人様・家族様と連携を取り意見を取り入れている。また3か月に1回のモニタリングで現状に即した介護の実践ができていくか確認している。	利用者や家族の参加を得てサービス担当者会議で検討し、楽しみ事を盛り込んだ介護計画を作成しています。参加できない家族や協力医からの医療的な情報は事前に確認し反映させています。3ヶ月毎にモニタリングを行い介護計画のサービス内容を見直しています。また介護計画を基に個別援助計画を作成し具体的な支援に繋がっています。利用者の状態が大きく変化した際は再アセスメントを行い現状を把握しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に、本人の様子や支援の経過を記録し、申し送りにて情報共有を行い、計画に反映させている。		

グループホームアンジェロ三碓の里(春日)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様・家族様のニーズに応じていけるよう、その時々で必要な関係者と話し合いを設け、個別のサービスを提供できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的に買い物などを通じ、外出の機会を設け、楽しく地域で過ごして頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携し、受診支援を行っている。また本人様・家族様の希望に沿った適切な医療を受けられるように支援している。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き継続している方は家族と共に受診し、文書や口頭で利用者の情報を伝え受診結果の報告を受けています。24時間連絡可能な協力医は月に2回の往診と急な体調の変化時は随時の往診にも対応してもらっています。また専門科へ受診が必要な場合は家族や職員が状況に応じて付き添い、歯科は必要な時に来てもらっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日常の体調の変化や気づきなどは記録に残し、随時看護職に伝え相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な受診や往診などで、医療機関への相談や情報提供を行っている。入退院時は、医療機関、ご本人の家族と連携し、普段の様子など伝え、安心して治療できるように支援している。入院中の面会時には病院関係者に話を聞き、退院前に連携会議に出席することで、情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医や家族様と相談しながら方針を決定していく。出来る限り穏やかな終末期を迎えられるように取り組んでいる。	入居時に終末期におけるホームの対応についてできることや医療が必要となった場合は対応が難しいことなどを伝えていきます。これまでに支援の経験はありませんが最期までホームで過ごすことを希望する方も多く、次回の家族会で話し合いを予定しており、これから体制づくりに取り組みたいと考えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の備え、勉強会を通して緊急時の対応を全ての職員に周知させている。日頃から急変の可能性などを申し送り、その都度対応について確認している。		

グループホームアンジェロ三碓の里(春日)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難順路や場所は、全職員が把握している。年に2回の防災訓練や、法人内の勉強会などで身に付けている。	訓練は年に2回昼夜を想定し併設事業所と合同で行い、1度は消防署の指導の下通報や避難誘導、消火器の使用方法などの訓練を利用者と共に実施しています。地域の防災訓練には職員が参加し、自治会長や近隣住民には訓練時や災害時に協力が得られるよう働きかけています。法人施設に備品や備蓄を置いています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の自尊心を傷つけないように配慮し、思いに沿った言葉かけや対応を行い支援している。	入職後3ヶ月間はプライバシーなどのマニュアルを基に利用者を尊重した対応が身につくよう指導を行い、接遇分科会からの注意喚起もあり全職員に周知しています。基本的には堅苦しくない程度の敬語で対応し、排泄や入浴介助時はプライバシーや羞恥心に配慮し、同性介助の希望にはできるだけ対応しています。不適切な対が見られた場合は個別に指導しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の様々な場面で、自分で決められることを多く取り入れ、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴といった大まかな業務の流れがあるが、利用者一人一人のペースで過ごして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の機会には、自分で身だしなみや、おしゃれに気を使われる利用者に対して、その日の状況に合わせて、洋服と一緒に選んで頂いたり、整容の促しなども行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様には、主に食卓や食事前の準備を行って頂けるように支援し、職員も一緒に食卓を囲み食事をしている。また食器洗いも一緒に行って頂けるよう支援している。	食事は3食とも業者から調理済みの物が届き、利用者は盛り付けや洗い物などに携わり、職員も共に食卓に着き談笑しながら食事を摂っています。また業者は毎月意見を聞きに来ており希望などを伝えています。月に1~2度は利用者の食べたい物を聞き買い物から調理まで一緒に行ったり、回転ずしなどの外食の他、バーベキューやピザなど年に数回は家族と一緒に食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に摂取量のチェックを行い記入し、栄養管理を行っている。お茶など水分を好まれない方もおられるので、お好きな飲み物を提供させて頂いている。		

グループホームアンジェロ三碓の里(春日)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お声かけし口腔ケアを行って頂く。皆様できているかチェックを行い記入している。歯科医とも連携を図り、必要に応じて義歯の調整や専門職による口腔ケアもおこなわれている利用者もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行い、失禁予防に努めている。	排泄チェック表から個々のリズムを把握し、把握の難しい方は時間を決めてトイレに案内しリズムを把握しています。各居室には補助バーが取り付けられたトイレがあり、自身でトイレに行けるよう動線を考えて家具を配置し、自分のペースで排泄ができるよう配慮しています。カンファレンスでは排泄支援が議題になることも多く排泄用品の業者の意見も参考にしながら検討し、自立に向かうよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝・昼・夜とバランスの良い食事を提供し、十分な水分を摂取して頂けるよう支援している。また適切な運動を取り入れ予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は、午後に行っている事が多いが、その日の体調や気分などに配慮し、個々のペースに合わせて入浴支援を行っている。	入浴は週に3回を目安に午前中から午後の3時頃までの間で支援し、入浴日や時間、回数などは本人の希望に添って入ってもらっています。入りやすい浴室や脱衣所を暖房で温め、一人ずつ湯を入れ替え、其々個人の好みのシャンプーを使用してもらい、ゆっくり入ってもらっています。入浴を断る方は職員の声掛けの工夫やタイミングを変えるなど工夫しながら入浴に繋げています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間、起床時間についてお声かけさせて頂くように支援している。日中でも希望時に居室で休んで頂き、居室内の空調管理も行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人の服薬内容をファイルに周知している。新処方や変更時には申し送りし、症状の変化にも注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の家事の中から役割を持って頂き、優先的に行って頂く。月2回～4回の外出や調理レクなどを設け、楽しんでいただいている。		



グループホームアンジェロ三碓の里(春日)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	個々の希望に沿って、大型スーパーやレストランなど普段はいけないような場所への外出レクを計画し支援している。	利用者の希望に添って近隣の公園やホーム周辺の散歩の他、買い物に行ったり、玄関先で外気浴をする等、体調に配慮しながら偏ることな外気に触れる機会を設けています。また初詣や春と秋には桜や紅葉などを見に行ったり、行事によっては家族にも声をかけ一緒に外出を楽しんでいます。またふれあいサロンや祭りなどの地域行事にも出かけています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の大半の方が金銭管理は難しく、事務所で預らせて頂いているが、その方の状況に応じて対応していく。大型スーパーでの買い物や外食レクの支援の際は家族様に同意を得て、外出している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会の少ない遠方の家族様からの電話があれば取次、いつでも家族様と話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、見通しがよく利用者様に配慮し気を使わず遠くからでも見守りが出来るようにしている。また季節感を感じて頂けるような飾りつけも行っている。	共有空間はクリスマスや正月などの季節ごとに飾りつけを行い、利用者と一緒に作ったカレンダーを見やすい場所に置き、季節や日時が分かるよう配慮をしています。南向きのリビングは窓からの採光をカーテンで調整し、テレビの前にソファを置くなどフロアごとの利用者に合わせて寛げる場所を作っています。日々掃除専門の業者による丁寧な掃除が行われ清潔な環境を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはテーブル・椅子・ソファがあり、一人一人が自由に過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはくつろいで頂けるよう出来るだけ馴染みの物や、使い慣れたものを持参され、その人らしい部屋になるように努めている。	居室にはトイレや洗面、ベットの他、筆筒やテレビなども備え付けられており、家族と相談したり安全に動けるように考え配置を決めています。使い慣れた寝具やクッションなどの小物類、家族の写真や大切な仏壇、好きな歌手の写真などを飾り、安心して過ごせるよう配慮しています。業者による日々の掃除に加え、職員がその都度掃除を行い清潔な空間を保っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々にできる事を把握し、状況に応じ、居室環境を設定している。声掛けや見守りを行い、自立した生活を維持できるように支援している。		